

2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部 : /School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有 : /Available
学域等/Field	/デザイン科学域 : /Academic Field of Design	年次/Year	/3年次 : /3rd Year
課程等/Program	/デザイン・建築学課程・課程専門科目 : /Specialized Subjects for Undergraduate Program of Design and Architecture	学期/Semester	/後学期 : /Second term
分類/Category	/:/	曜日時限/Day & Period	/月 3-4/木 3-4/金 3-4 : /Mon.3-4/Thu.3-4/Fri.3-4

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	13122401			
科目番号 /Course Number	13160123			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	都市・建築遺産論 : Theory of Urban and Architectural Heritage			
担当教員名 / Instructor(s)	/笠原 一人/MARTINEZ,Alejandro/(北岡 慎也) : KASAHARA Kazuto/MARTINEZ,Alejandro/KITAOKA Shinya/			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	歴史的建造物とそれをとりまく環境、あるいは歴史的都市・町並み・景観を対象に、その読解の方法、保存修復・再生の理論と実践事例を学び、歴史及び歴史的遺産を活かすための哲学・方法と、それらを前提とした現在のとらえ方を身につける。
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	伝統建築と近代建築について、それを取り巻く環境、読解方法、保存・活用の事例を学び、その特徴や問題点を理解する。歴史都市・町並み・景観といった都市遺産について、その読解方法、保存・活用の事例を学び、その特徴や問題点を理解する。都市遺産及び建築遺産の読解及び保存・活用への理解を深め、歴史が重層した結果として現在をとらえる考え方を身につける。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan		
No.	項目 Topics	内容 Content
1	日 都市・建築遺産概論	歴史的建造物とそれをとりまく環境、あるいは歴史的都市・町並み・景観を対象に、その読解と保存活用のあり方につき、基本的な考え方を述べる。

	英		
2	日	伝統建築の読解方法	日本の伝統建築を対象に、建築それ自体、あるいはそれをとりまく環境を読み解く方法について、具体的な事例から論じる。
	英		
3	日	文化財建造物保存・活用の制度と運用	文化財建造物の保存・活用の制度とその運用について論じ、保存を今日の建築活動の一環としてとらえる視野を学ぶ。
	英		
4	日	都市建築の保存・活用	近代建築及び京町家を例に、都市内における歴史的建造物の保存活用について論じる。
	英		
5	日	都市遺産保存・活用の環境	歴史的都市・町並み・景観といった都市遺産の保存・活用のための制度とその運用につき、日本と諸外国の事例を比較しつつ論じる。
	英		
6	日	都市遺産の読解方法	都市遺産を、歴史が重層した結果の現在として読み解くための方法を、具体的事例を通して論じる。
	英		
7	日	都市遺産保存・活用1 伝統的建造物群保存地区	伝統的建造物群保存地区制度について、その特徴や問題点を論じる。
	英		
8	日	都市遺産保存・活用の事例2 文化的景観	文化的景観制度について、その特徴や問題点を論じる。
	英		
9	日	近代建築保存・活用の諸問題1	近代建築の保存・活用は、それ以前の時代の建築の保存・活用と考え方や方法において異なる部分がある。いかに異なるか、「オーセンティシティ」の概念を中心に近代建築保存・活用の理念について論じる。
	英		
10	日	近代建築保存・活用の諸問題2	近代建築の保存・活用は、それ以前の時代の建築の保存・活用と考え方や方法において異なる部分がある。いかに異なるか、復元や修復の問題を中心に近代建築保存・活用の方法について論じる。
	英		
11	日	近代建築保存・活用の事例1	日本における近代建築の保存・活用の事例を紹介し、その特徴や問題点について論じる。
	英		
12	日	近代建築保存・活用の事例2	オランダにおける近代建築の保存・活用の事例を紹介し、その特徴や問題点について論じる。
	英		
13	日	近代建築保存・活用の事例3	ヨーロッパにおける近代建築の保存・活用の事例を紹介し、その特徴や問題点について論じる。
	英		
14	日	近代建築保存・活用の環境1	近代建築の保存・活用にあたっては、法律や行政、教育、職能など、保存・活用を取り巻く環境の整備も重要である。日本とヨーロッパの状況やその違いについて論じる。
	英		
15	日	近代建築保存・活用の環境2	近代建築の保存・活用にあたっては、法律や行政、教育、職能など、保存・活用を取り巻く環境の整備も重要である。日本とヨーロッパの状況やその違いについて論じる。
	英		

履修条件 Prerequisite(s)

日	
英	

授業時間外学習（予習・復習等）

Required study time, Preparation and review

日	日本建築史及び近代建築史を履修していることが望ましい。
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	プリント配付／参考書：テオドル・プルドン『近代建築保存の技法』、鹿島出版会、田原幸夫『建築の保存デザイン』、学芸出版社、他、参考書一覧を配付
英	
成績評価の方法及び基準 Grading Policy	
日	各担当教員がそれぞれ課題を出す。提出方法については授業の中で説明する。また、平生の授業への積極的な関与も加味する。
英	
留意事項等 Point to consider	
日	
英	